

山下市政 3期目始動



プロフィール

やました あきし
山下 昭史 市長

昭和 41 年 9 月生まれ

平成 2 年 3 月 國學院大學
経済学部卒業
4 月 株式会社瀬戸内海
放送入社
平成 23 年 4 月 香川県議会議員
初当選
平成 29 年 12 月 三豊市長
初当選

市民の幸福度を高めるために 取り組みます

- 健康寿命 UP
- 市民の皆さんの選択肢を増やす
- 自然環境の経済価値化
- 市民の利便性を向上

少子高齢化への対策はもちろんです。1人ひとりが豊かに暮らしていくためには、子どもだけでなく全世代の選択肢を増やすことが大切です。そのためには、まず市民の皆さんが健康でなければいけません。健康であれば、好奇心が湧き、前向きにもなれます。健康寿命の延伸につながられるよう、新しい取り組みを進めます。

三豊市の課題とそれに対する取り組みをお聞かせください



『書かない窓口』の実現に向け、デジタル技術を活用した行政DX[※]を進めます。
国際バカロレア教育[※]については、現在、詫間小学校と詫間中学校が候補校になっているので、今後は認定校になることをめざすとともに、市内全ての学校に広めていきたいと考えています。

市民の皆さんの選択肢を増やすために、直近では何を考えようでしょうか

※行政DXとは…国や自治体がデジタル技術を使って、行政サービスや業務のやり方そのものを変えていくこと。
※国際バカロレア…探究的な学びで、主体性と思考力を伸ばす国際的な教育プログラム。条件を満たす認定校のみ実施可能。

継続と進歩

1月の市長選挙において、無投票で再選を果たした山下 昭史市長に、3期目スタートにあたっての意気込みやこれからのまちづくりなどについて、インタビューしました。

3期目のスタートにあたっての意気込みをお聞かせください

市制施行20周年を迎えた今、継続と進歩をスローガンに掲げてやっていきたいと考えています。
世の中の技術は早いサイクルで変わっており、それに対応しなければいけません。そのためには、時代に合わないものは変えながらも、市民サービスは低下しないよう、柔軟に対応するための『進歩』が必要です。また、何かを始めることはもちろん重要ですが、今ある取り組みを着実に続けていくことと『継続』する仕組みをつくることこそが、次の20年を見据えた持続可能なまちづくりの基盤になると考えています。

2期8年を振り返って印象に残っていることはありますか

この8年は、あつという間に過ぎました。1期目は、新型コロナウイルス感染症が流行し、思うように施策が進まないことも多々ありました。そんな状況の中でも、一斉休校時には県内自治体で初めてオンライン授業を行うなど、何が最善かを考え、職員とともに行動しました。



2期目は、進むべき方向性が見えてきたように感じます。高瀬中学校夜間学級の開設や放課後改革、宝山湖ボールパークの整備などにも取り組みました。



▲小・中学校でタブレットを1人につき1台配布



1月30日の就任式では、幹部職員に対し、「慣習にとらわれず、時代に合わせて変化することが大事。市民の皆さんを第一優先に考え、さまざまなことにチャレンジする風土を築いていきましょう」と訓示しました。

市民の皆さんへ

社会は大きく変化し、混迷の時代に入っています。時代に合せて、新たな技術が必要になってきますが、それは市民の皆さんが幸福度や豊かさを実感できるものとなります。

住み続けたい、住みたいと思えるまちであり続けるために、新しいものに取り組むときには、多少のご不便をおかけしますが、必ず市民の皆さんの利便性を高めることにつながりますので、ご理解とご協力をお願いします。

市の取り組みには、ぜひ積極的にご参加いただくと嬉しいです。

三豊市長

山下 昭史